

アレルギー 39

一度に39種類のアレルギーの原因を調べられる検査があります

アレルギーの原因は身近なところにあります

アレルギーを引き起こす物質を「アレルゲン」といい、私たちの周りのいたるところに存在します。

アレルギーの原因は1つとは限りません

アレルゲンとなる物質は人によって様々です。複数のアレルゲンに対してアレルギーを起こすこともあります。

原因を知ること、それがアレルギー治療の第一歩です

アレルギー性疾患の治療は原因アレルゲンを正確に特定することが重要です。ぜんそく・アトピー性皮膚炎・アレルギー性鼻炎/アレルギー性結膜炎では薬物療法と原因アレルゲンの除去（回避（セルフケア）、食物アレルギーでは原因食物を食べないこと（食物除去）が原則となります。原因アレルゲンとの接触が続けばアレルギー症状が慢性化して治療が困難になっていきます。原因アレルゲンを特定することで、注意しなければいけない季節、最小限除去しなければいけない食物などがわかり、生活への負担も軽減されます。

医師による正確な診断を受けましょう

血液検査が陽性でもそれが原因アレルゲンでない場合もあります。特に食物ではそのような場合があります。陽性になったものを全てを除去することは患者さんやご家族の負担が大きくなります。不要な除去を防ぐためにも、医師による正確な診断を受けましょう。

こんな検査です！

一度の少量採血で39種類の項目が調べられます。室内塵や花粉、食品表示義務7品目を含むアレルギー性疾患の主要な原因アレルゲンが網羅されています。

吸入系	その他アレルゲン	食品系	アレルゲン
室内塵	ヤケヒョウヒダニ、ハウスダスト	卵	卵白、オボムコイド
動物	ネコ、イヌ	牛乳	ミルク
昆虫	ガ、ゴキブリ	小麦	小麦
樹木	スギ、ヒノキ、ハンキ、シラカンバ	豆・粒実類	ピーナッツ、大豆、ソバ、ゴマ、米
草本類	カモガヤ、オオアザガエリ、フタタシ、ヨモギ	甲殻類	エビ、カニ
空中真菌	アルテルナリア(スチロビ)、アスペルギルス(コウジカビ)	果物	キウイ、リンゴ、バナナ
真菌その他	カンジダ、マラセチア、ラテックス	魚・肉類	マグロ、サケ、サバ、牛肉、鶏肉、豚肉

Thermo Fisher Diagnostics K.K.より許諾を得て転載

●クラス判定値

判定	クラス	インデックス値	
陰性	0	0.27未満	
疑陽性	1	0.27以上	0.50未満
	2	0.50以上	1.80未満
陽性	3	1.80以上	7.05未満
	4	7.05以上	17.35未満
	5	17.35以上	29.31未満
	6	29.31以上	

※クラス判定値の見かた

クラス、インデックス値の数字が大きいほど、原因物質（アレルゲン）と推測されます。

症状があれば、医療機関を受診し、医師の指導のもと、アレルゲンの回避とともに治療を行いましょう。